

第6学年 保健学習指導案

日 時 11月14日(木) 4校時
対 象 南部町立向小学校6年34名
授業者 教 諭 佐 藤 幸 広

1 単元名 病気の予防(飲酒の害)

2 単元について

(1) 学習指導要領との関連

この単元は第6学年の
心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む
資質や能力を育てる。
並びに内容

(3) 病気の予防について理解できるようにする。

ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こること。

イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや
病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのな
い食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要が
あること。

エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

オ 地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。
を受けて設定している。

(2) 指導観

本単元の大きなねらいは、病気の発生要因と起こり方を知り、その予防のしかたについて理解できるようにすることである。病気の要因としては、生活行動と体の抵抗力の「主体」要因と、病原体・環境の「環境」要因の2つがある。これらの要因が重なり合って病気が起こるわけであるが、その起こり方に対応した予防のしかたを考えさせ、そして実践できるようにすることがとても重要である。本単元を通して、生活習慣病などの病気の予防法や喫煙・飲酒・薬物乱用の体に及ぼす影響についてしっかりと理解させ、生活のしかたの改善と生涯にわたる健康の基礎づくりを促していきたい。飲酒や喫煙の害、薬物乱用の害については、多くの児童にとってはあまり身近に感じられない内容である。しかし、近年は飲酒・喫煙の機会が少しずつ小学生にも増えてきており、そのきっかけの多くが周囲の大人の勧めによるものであることから、小学生段階からこれらの害についてしっかりと認識し、勧めに乗らない、断れる強い意志を育ておく必要があると考える。こうしたことから、本単元は自分の健康は自分で守るという意識を高め、健康により行動を自ら継続して実践することが必要であるということを理解させることができる単元である。

指導するにあたって、日常経験したり、見たり聞いたりしたことのある病気を取り上げるなどして、身近なものとして学習を進めていきたいと考える。体験を通して理解するのが難しい内容を、ICT機器を活用することで正しく確実に理解し、「未成年は、絶対に喫煙、飲酒、薬物乱用をしてはいけない」という意識をもてるようにしたい。また、ノートに書く活動を通して、飲酒・喫煙・薬物乱用についての興味本位の理解ではなく、正しい知識と、それに対する考えの深まりを自分なりの表現で書き表すことができるようにしたい。さらには、自分の健康は自分で守る意識の向上につなげたい。

(3) 児童観

本学級の児童は、明るく素直で言われたことや決められたことは大変よく守り、男女の仲もよい。しかし、自ら学び自ら考えることは今一步で、課題に対して、深く考えたり、発言したりすることは得意とはいえない。運動会や修学旅行などの行事を通じて、学級が一丸となり団結してやり遂げる喜びや精一杯取り組む充実感なども味わってきている。また、友だち同士の励まし合いや教え合いなど、言葉がけや、協力することの大切さも理解できるようになってきている。

児童は、病気の予防の前半(病気の起こり方、病原体と病気、生活の仕方と病気)については、前期に学習した。また、南部町で行っている生活リズムチェックカードの結果をうけ、自身の生活経験に重ね合わせて理解を深めた。後期の学習に向けて、飲酒や喫煙と健康に対する意識調査を9月に実施した。

- 喫煙や飲酒の経験について
 - ・喫煙経験者 0名
 - ・飲酒経験者 8名
- 健康に及ぼす害の有無について
 - ・喫煙は有害 31名
 - ・飲酒は有害 11名
- 未成年者の喫煙や飲酒の意識
 - ・喫煙「よくない」30名
 - ・飲酒「よくない」25名
 - ・喫煙「少しくらいならよい」4名
 - ・飲酒「少しくらいならよい」9名
- 勧められたときにどうするかについて
 - ・喫煙「すわない」30名
 - ・飲酒「飲まない」20名
 - ・喫煙「すう」2名
 - ・飲酒「飲む」7名

以上のことから、喫煙に比べ飲酒に対しては警戒心や抵抗感が希薄であることが分かる。そうしたことから、飲酒の害について、しっかりと指導しておく必要があると思われる。

3 研究主題との関連～学習効果を高め、基礎・基本の確かな定着を図るためのICT活用の研究～

(1) 実物投影機

実物投影機を用いて資料を拡大表示し、写真資料の読み取りをわかりやすくする。マグネットスクリーンを利用し、児童が発見したことや重要なことを書き込むことで、資料を効果的に読み取る基礎的な能力の育成を図る。また、子どもたちにはできない実験を映すことで、実験結果を共有し学習内容の理解を図る。

(2) 教科書を活用した展開の工夫

教科書を黙読したり掲載されている図を拡大表示したりする。教師が児童の手元にある物と同じものを利用することで、指示を明確にして読み取りが苦手な児童にも重要なことを落とさずに読み取らせるための手がかりとする。また、拡大表示する場面や、何を読み取らせたいかという目的、児童への発問を吟味し、利用する場面を精選することで簡便にICTを活用し、高い効果が期待できると考える。

4 単元指導計画

(1) 単元の目標

病気の予防について理解できるようにする。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
病気の起こり方と予防の方法について関心をもち、進んで課題を見つけようとしたり、意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	病気の起こり方と予防の方法について、課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりしている。	病気の起こり方と予防の方法について、実践的に理解し、知識を身に付けている。

(3) 指導計画8時間（本時 5／8）

	目標	学習内容	評価規準（評価方法）
1	病気の起こり方について知り、体には病気から守る様々な力があることを理解する。	・知っている病気を挙げ、主な原因について考える。 ・病気から体を守る仕組みについて知る。	・病気の原因に関心をもち、原因が一つでないことに気付いている。（発言、ノート） ・体のすばらしい仕組みに関心をもっている。（発言） ・規則正しい生活、適度な運動などが大切であることを理解している。（ノート）
2	病原体がもとになって起こる病気を知り、その予防方	・インフルエンザや食中毒の起こり方や知る。	・感染源や感染経路、体の抵抗力などの病気の起こり方

	法を理解する。	・インフルエンザや食中毒を予防する方法について考える。	を理解している。(ノート) ・それぞれの病気の起こり方に対応した予防方法を考えている。(ノート)
3	健康によい生活習慣を身につけることによって、生活習慣病を予防できることを理解する。	・生活習慣病とその原因を知る。 ・自分の生活を振り返り、これからの健康生活を考える。	・生活習慣病とその原因を理解している。(ノート) ・生活習慣の大切さを強調した実行可能なめあてを立てている。(ノート)
4	むし歯や歯周病を防ぐためにはどうすればよいかを考え、主体的に自分の生活を改善しようとする。	・むし歯や歯周病の起こり方をまとめる。 ・自分の生活を振り返り改善するところを考える。	・生活の仕方とむし歯との関係を理解している。(ノート) ・むし歯予防のために改善すべきことを考えている。(ノート)
5 本時	飲酒が心身の健康にどのような悪影響を及ぼすかを理解する。	・飲酒の害について調べる。 ・未成年の飲酒が禁止されている理由や勧められたときに断る理由を考える。	・飲酒が心身に及ぼす害や未成年の飲酒の影響が大きいことについて理解している。(ノート) ・学習したことを活用して飲酒の誘いを断る理由を考えている。(発言)
6	喫煙が心身の健康にどのような悪影響を及ぼすかを理解する。	・喫煙の害について調べる。 ・未成年の喫煙が禁止されている理由や喫煙場所の制限の理由を考える。	・喫煙が心身に及ぼす害や未成年の喫煙の影響が大きいことについて理解している。(ノート) ・学習したことを活用して喫煙の誘いを断る理由を考えている。(発言)
7	薬物が心身に及ぼす害と社会に与える悪影響を理解し、手を出さない意思表示をすることができる。	・薬物の害や影響を知る。 ・絶対に手を出さないという意思表示をする。	・薬物の乱用が心身や社会に与える影響を理解している。(ノート) ・薬物乱用と自分自身の健康や夢などと関連づけて手を出さない意思表示をしている。(ノート)
8	健康を守る様々な施設や活動を知り、自分の夢の実現と心身の健康を関連づけて考える。	・健康や守るための施設や活動などを調べる。 ・自分自身のこれからの健康的な生活を考える。	・地域の様々な保健活動を調べ、これからの健康的な生活に生かそうとしている。(ノート)

5 本時の指導

題材名	飲酒の害
授業づくりの主な視点	■発問・指示 □板書（ノート指導） □話合い ■ICTの活用
目標	飲酒が心身の健康にどのような悪影響を及ぼすかを理解する。
指導にあたって	導入場面でアンケート結果やアルコールの缶を提示し、学習に対する意欲を高める。また、視聴覚機器を活用し、資料の読み取りを共有し、飲酒に関する正しい知識や未成年時の飲酒が悪影響を及ぼすことへとつ

	なげていく。さらに、アルコールを活用した実験の代行により、アルコールが及ぼす害を視覚的に実感させる。そして、学習したことを生かして、飲酒の誘いの断り方をロールプレイングで体験させる。 授業後には、授業前に実施したアンケートをもう一度とり、児童の変容を見る。
I C Tを活用する目的	☐ 課題の拡大 ☒ 動機付け ☒ 指示の明確化 ☐ スキル定着 ☒ 資料説明 ☐ 繰り返しによる定着 ☐ モデルの提示 ☐ 失敗例の提示 ☒ 情報の共有 ☒ 実験の代行 ☐ 体験の想起（振り返り） ☒ 比較
活用する I C T	☐ 大型テレビ ☐ 電子黒板 ☒ 実物投影機 ☒ プロジェクタ ☐ コンピュータ ☒ スクリーン ☐ デジタルコンテンツ

6 本時の評価規準

- ・飲酒が心身に及ぼす害や未成年の飲酒の影響が大きいことについて理解している。【知識・理解】
- ・学習したことを活用して飲酒の誘いを断る理由を考えている。【思考・判断】

7 展開

段階	○学習内容と学習活動 (予想される子どもの反応等)	指導者の働きかけ、留意点、評価	I C Tの活用と目的
問題・課題把握	1 飲酒に関するアンケート結果を提示する。 2 アルコールの缶を提示して何が書いてあるかを読み取り、本時の課題につなげる。	・アンケート結果のグラフを提示し学習に対する意欲を高める。 ・喫煙の結果と比較し飲酒に対する抵抗感の低さを意識付ける。 ・注意書きの部分を拡大表示する。 ・未成年の飲酒がなぜいけないのかを考えさせる。	・実物投影機① ・動機付けと情報の共有（グラフ） 実物投影機② ・資料説明と情報の共有（アルコールの缶）
7	飲酒は心身の健康にどのような影響があるのだろう。		
展開	3 飲酒の心身への影響について理解する。 (1) 体内に入ったときの吸収のされ方と心身への影響 (2) 多量の飲酒による身体への影響 ・脳がまひ ・脳が縮む ・肝臓の病気 (アルコールテストを始める) (3) 未成年期における影響 ・肝臓や脳への障害 ・性格が変化 ・記憶力や思考力の低下 ・意欲の低下	・理解しやすくするために資料や教科書の図を用いて、アルコールの害や代謝経路を提示する。 ・写真を用いて、脳や肝臓が影響を受けやすいことをとらえやすくする。 評（知識・理解） 飲酒が心身に及ぼす害について理解している。（ノート） ・発育期の飲酒が心身への影響を強く受けること、法律で酒を飲ませた人や売った人も罪になることにも触れるなどをおさえる。 評（知識・理解） 未成年期の飲酒の影響が大きいことを理解している。（ノート）	実物投影機③ ・資料説明と情報の共有（脳の収縮写真、肝臓障害の写真） 実物投影機③ ・実験の代行と比較（実験内容）

28	4 アルコールに対する肝臓の変化を確認する。 ・アルコールに入れた方が色が変わった。 ・水に入れた方の色は変わらない。 5 飲酒のすすめを断る方法を考える。 ・体に害があるので飲みません。 ・未成年の影響が大きいのでまだ飲みません。	・アルコールが肝臓に与える害について、豚のレバーを使った実験を通して理解させる。 ・ペアで誘う役と断る役を決め、自分なりの理由で断る練習をさせる。 評（思考・判断） 学習したことを活用して飲酒の誘いを断る理由を考えている。 （発言） ・アンケートで誘われたら「飲む」と答えた児童に代表で発表させる。	
10	6 授業でわかったことをノートにまとめる。	・板書をもとに、個々の表現で課題に対する答えをまとめさせる。	
		・何人かに発表させ黒板にまとめる。	

8 板書計画

飲酒は心身の健康にどのような影響があるのだろう。	
スクリーン ①アンケート結果 ②ビールの缶 ③資料の写真 ④実験の様子	体に入ったアルコールの経路図 ○心身への害 ・脳がまひする →注意力や判断力の低下 →体が思うように動かない ・やめられない ・脳が縮む ・肝臓の病気になる
飲酒をすると心身に様々な害がある。未成年の時は特に大きな害があるので、断る強い意志を持つ。	発育期はアルコールの影響が大きい 飲み続けると ・肝臓や脳への障害 ・性格が変化 ・記憶力や考える力、意欲の低下

こうさそわれたらどうする？

場面

小学校の卒業式の夜、親せきのおじさんが家に来て、ビールを飲み始めました。

おじさん：「〇〇、卒業おめでとう。お祝いに1 ぱい飲むか？」

あなた：「」

おじさん：「中学生になるんだから、1 ぱいくらい飲めなくちゃ。」

あなた：「」

おじさん：「少しくらい飲めよ。お祝いなんだから。」

あなた：「」

8 板書計画

飲酒は心身の健康にどのような影響があるのだろう。

スクリーン

①アンケート結果

②ビールの缶

③資料の写真

④実験の様子

体内に入った

アルコールの

経路図

- ・脳がまひする
→注意力や判断力の低下
→体が思うように動かない

○多量の飲酒を続けると

- ・やめられない
- ・脳が縮む
- ・肝臓の病気になる

飲酒をすると心身に様々な害がある。未成年の時は特に大きな害があるので、断る強い意志を持つ。

発育期はアルコールの影響が大きい

飲み続けると

- ・肝臓や脳への障害
- ・性格が変化
- ・記憶力や考える力、意欲の低下

お酒についてのアンケート

年 名前

①あなたはお酒を飲んだことがありますか？

(ある ない)

*あると答えた人に質問です。お酒を飲んだのはどんなときですか？

②お酒を飲むと体に害はあると思いますか？

(ある ない)

*あると答えた人に質問です。どんな害ですか？

③お酒を飲むのをすすめられたらどうしますか？

(飲む 飲まない わからない)

④未成年（20歳未満）がお酒を飲むことをどう思いますか？

(よくない 少しくらいならよい よい)

⑤将来（20歳になったら）お酒を飲むつもりですか？

(飲む 飲まない わからない)

たばこについてのアンケート

①あなたはたばこをすったことがありますか？

(ある ない)

*あると答えた人に質問です。たばこをすったのはどんなときですか？

②たばこをすうと体に害はあると思いますか？

(ある ない)

*あると答えた人に質問です。どんな害ですか？

③たばこをすうのをすすめられたらどうしますか？

(すう すわない わからない)

④未成年（20歳未満）がたばこをすうことをどう思いますか？

(よくない 少しくらいならよい よい)

⑤将来（20歳になったら）たばこをすうつもりですか？

(すう すわない わからない)

【研究主題】

学習効果を高め、基礎基本の確かな定着を図るためのICT活用の研究

【研究仮説】

学習指導において、ICTの活用を工夫することにより、より効果的に学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりすることができる。

【保健：病気の予防「飲酒の害」授業の視点】

本時のねらいを達成するために、ICT活用は有効であったか

【本時のねらい】

- A 飲酒をすると心身に様々が害があり、特に未成年時の飲酒は影響が大きいことを知る。
- B 学習したことを活用し、飲酒の誘いを断る理由を考えている
- (Aから、未成年が飲酒をしてはいけないことを強く感じ、ロールプレイングに生かしている。)

ICTの活用は有効であったか

【ICT（実物投影機・パソコン・プロジェクター）の活用、工夫】

- 1 飲酒に関する児童アンケート結果のグラフの提示（動機づけ・情報の共有）
- 2 アルコール飲料の缶の注意書きの提示（資料の説明・情報の共有）
- 3 教科書の写真資料（脳の収縮・肝臓障害）の提示（資料説明・情報の共有）
- 4 豚の肝臓の、アルコールテストの実験提示（実験の代行・比較）

MEMO

平成25年11月14日（木）

三戸郡小学校視聴覚研究会Ⅱ群発表会アンケート

本研究会の充実のため、会員の先生方からの御意見等をうかがいたいと思います。
日程終了後、提出してくだされば助かります。御協力をよろしくお願いいたします。

（１）本時の授業について、成果や課題、感想等をお書きください。

（２）研究計画、テーマに関して、御意見御要望がありましたら、お書きください。

（３）その他、何かありましたら、お書きください。（夏季研修会などでもかまいません）

御協力ありがとうございました。

<授業者から>

- ・ 昨年は、電子黒板を中心に行ってきたが、今年は、実物投影機を使って研究を進めてきた。
- ・ 実物投影機を使うに際して、ここはいらなかったのではないかとか、ここで使ったらよかったのではということがあったら、お願いします。
- ・ 教科書中心に行った。読み取りが低い子が多いので、ページを指定して読み取らせてみた。たくさんのことを書いてくれたので、時間がかかってしまった。自分の力でまとめていく力を付けていかなければと思っている。
- ・ 本時については、意欲を持たせるために実物投影機でアルコールの缶を提示し、何書いてあるかを読み取らせた。展開では、資料説明と情報の共有と実験内容について実物投影機で提示することにより、知識として身につけさせたいと思った。
- ・ 調べたことを伝えたいと思い、しゃべりすぎたのかな？
- ・ 資料提示については、肝臓の絵も見せる予定だったがとんでしまった。
- ・ ロールプレーについては、道徳でやってみたが、もう少し練習が必要だある。
- ・ 子どもたちは、反応が良くいつも通りに楽しく進めることができたが、だらしなくみえたかも・・・。

<話し合い>

- ・ 資料提示の仕方を見て分かりやすかった。子どもたちが素直に発表していて良かった。
- ・ 実物投影機のメリット・デメリットを教えてほしい。
- ・ メリットについては、
 - ①みんなでいっしょに見られる。
 - ②拡大して注目させられる。
 - ③資料の準備が少なくて済む。
- ・ デメリットについては、資料を多く提示してしまうので精選が大事。いっぱい与えるとねらった以外のことが残ってしまう。
- ・ 見せすぎて、授業の中心がぼやけてしまう。簡単に見せられるので・・・。ワークシートを使いすぎるのと同じかな。
- ・ スクリーン貼りっぱなしで興味を引くのではなく、教材の一つとして使っている。便利である。
- ・ 黒板が有効に使われていた。
- ・ 教科書にあるものを投影することの意味は、共有・注目・拡大。
- ・ メリットは、複式なので、全学級に入れている。間接指導・フラッシュカード・発表にノートをもそのまますぐ使えるから。
- ・ デメリットは、画像をならべてみられない（比較）。使う場面を考えて使おう。見せすぎること。何を写すか。実物・実験結果・資料？
- ・ もっと子どものつぶやきや発表を聞きたかった。社会は資料がたくさんあるので・・・。
- ・ 読み取りは、深まりや広がり部分がロールプレーにきてるのかな？

- ・文章を写しているの、箇条書きとかで書いてほしい。
- ・去年の授業を参考に読み取りの練習をさせてきたが、まだまだである。
- ・文だけでなく絵からも読み取っていて十分力があると思った。
- ・本時のAのねらいができるとBがうまくいく。
- ・指導案3の(2)のところで、「障害」という言葉をもっと取り上げると良かった。
- ・教科書の言葉をもっと大切にすると良い。教材研究の大切さが分かった。
- ・書き込めるスペースを残して写していて良かった。
- ・一緒に教材研究をして楽しかった。人数の多いときにメリットがある。色が変わるので気をつけないと行けない。自校では、算数で使っている。TPシートを上にして書くと準備がいらない。
- ・インパクトがあるのはいいが、小学生はどの辺まで見せていいのか。
- ・むし歯の所は、ものすごい歯を見せたらすごすぎて引きました。あんまりひどい場合はどんなもんかな。
- ・効果を上げたくて使うが、「これからこういう映像を見せるけど、いやだったら出て行っていいよ。」と一声かけておくと良い。生活歴がちがうので・・・。
- ・肝臓の変化の映像をずっと見せたいと思った。静かに見ている時間であっても良かったかも・・・。触感は、映像で見られないので回して触らせても良かった。
- ・ずっと見せた方が効果があると思うが、時間がかかるのでこういう計画にした。やる内容が多かったのかな？どうやってみせるかいろいろ考えた。

<助言者>

○授業について

- ・子どもたちはよく頑張っていた。
- ・素直に内容に沿って行われていた。
- ・即提供できる投影機でカンの文字を見せて導入していて良かった。
- ・指導計画と内容が良かったので、授業がうまくいった。
- ・学習指導要領に則っていて良かった。
- ・[低年齢からの害の大きさ][法律禁止事項][誘いがきっかけになっている]など、子どもの意見を拾っていて良かった。
- ・日常生活との関連から実物投影機だったのかな。過程で同意化される花菜の出よかった。

○ICT活用について

- ・準備時間について考えると実物投影機だったのかな。実際の物を映し出すことが良かった。
- ・どこの学校にもあるので、すぐに実践できる内容でいい提示になった。
- ・インパクトの問題は、子どもの実情を考えて行う。
- ・子どもの反応を見ながら行くと良い。
- ・使い分けをする。(導入・展開・まとめ)
- ・興味関心の掘り起こし、定着につながる学習効果がある。
- ・普段の実践を見せてもらっているの、これからも続けてほしい。

○お願い

- ・情報モラルに対する指導（各校に配布されている）特に、倫理面、法の理解と遵守、安全面をよろしく。
- ・これからは、見せ方にこだわってほしい。